

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人 源勇会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者1人1人について、健康状態やおかれている生活環境について、早期に発見し対処できるように、午前と午後に応じ送りを行い、情報の共有とケア方法の確認、意見交換を行い、安全な暮らしができるよう支援している。</li> <li>・医療機関との協力で緊急時や病気の早期発見などの対応がスムーズにできる。</li> <li>・入居者1人1人のできる事を大切に、主役となれる場面作りや笑顔あふれるように努めています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平屋建て2ユニットのホームであり、個室、共用スペース共にゆったりと過ごせる広さである。また、広い中庭には季節の花などが植えられており、入居者の目を楽しませている。入居者はそれぞれのペースでゆっくと生活しており、職員もそれを崩すことなく、側から支えるような支援がなされている。また、病院が母体であるため、医療面での連携や緊急時の対応も整っている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5項目の理念を週ごとに、朝礼の際に唱和している。	5項目の理念を週ごとに、朝礼の際に唱和している。	事務所内に理念が掲示しており、朝礼で唱和し共有している。また、勉強会でも内容に触れ、全員で理解できるように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	病院受診の際などに知人と会われたり、地域の祭に参加している。	病院受診の際などに知人と会われたり、地域の祭に参加している。	母体の病院やデイサービスに地域の知り合いが来る事も多く、その際には面会している。地区の祭りにも近隣住民の協力を得ながら参加している。また、地域主催のサロンの場所を提供し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアにいられた際には、認知症の人の暮らしや支援について伝えてはいるが、定期的なものではない。	ボランティアにいられた際には、認知症の人の暮らしや支援について伝えてはいるが、定期的なものではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で得た情報や意見について実行可能なものは取り入れる努力をしている。	会議で得た情報や意見について実行可能なものは取り入れる努力をしている。	市担当者、民生委員、家族の出席があり意見も出やすい雰囲気、出された意見や情報に対して、事業所の運営に活かすよう努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、情報交換を行っている。	運営推進会議にて、情報交換を行っている。	運営推進会議で情報交換したり、困りごとの際は電話で相談しており、市担当者とは協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度はホーム内で勉強会を行い、身体拘束について理解する機会を設けている。玄関の施錠は行っていないが、報知音にて対応を行い、家族へも協力求めている。	年に1度はホーム内で勉強会を行い、身体拘束について理解する機会を設けている。玄関の施錠は行っていないが、報知音にて対応を行い、家族へも協力求めている。	拘束は行っておらず、徘徊があっても、声掛けを工夫したりする事でカギなどをかけないようにしている。拘束の理解についても勉強会を通し、全職員で理解し取り組めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても年に1度は勉強会を開き、現在の介護について振り返る場を設けている。	虐待についても年に1度は勉強会を開き、現在の介護について振り返る場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、理解に努めてはいる。	勉強会を開催し、理解に努めてはいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分な説明と同意を得ているが、心配事については、その都度対応行うように伝えている。	契約の際に十分な説明と同意を得ているが、心配事については、その都度対応行うように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置 ・介護に関する意見、質問についてはその都度対応行っている。	・意見箱の設置 ・介護に関する意見、質問についてはその都度対応行っている。	普段の面会時から気軽に意見が言えるような雰囲気づくりに努めている。また、プランの説明時など積極的に意見を求めるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会などで、業務や運営に関する意見を聞く機会を設け改善に努めている。	勉強会などで、業務や運営に関する意見を聞く機会を設け改善に努めている。	勉強会時に運営について意見を聞く機会を設けている。また、発言が少ない職員がいても、管理者が普段から声をかけ、意見が言いやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の能力や就業条件に応じて環境の整備行われている。	各個人の能力や就業条件に応じて環境の整備行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフが適合する研修に参加できている。	全スタッフが適合する研修に参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるグループホーム間で交流する機会づくりはあったが、十分に活用できていない。	地域にあるグループホーム間で交流する機会づくりはあったが、十分に活用できていない。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活を通して、本人が困っている事、不安な事を早く察知できるよう、スタッフ間で情報交換を行い、本人が安心できるように対応を行い、関係づくりに努めている。	生活を通して、本人が困っている事、不安な事を早く察知できるよう、スタッフ間で情報交換を行い、本人が安心できるように対応を行い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、ホームでの暮らしで心配な事や要望についてはその都度対応を行うことを伝えている。	入居に際して、ホームでの暮らしで心配な事や要望についてはその都度対応を行うことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活の様子を今後予想される支援について説明を行い、家族の要望や意向を踏まえたケアの実施に努めている。又適応する機関の情報提供や案内を行っている。	本人の生活の様子を今後予想される支援について説明を行い、家族の要望や意向を踏まえたケアの実施に努めている。又適応する機関の情報提供や案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の関わりを大切にし、感謝の気持ちを伝えあっている。	日常の関わりを大切にし、感謝の気持ちを伝えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの互いの関係を理解し、本人の暮らしがより良いものとなるように要望に耳を傾け、支えていく関係づくりに努めている。	これまでの互いの関係を理解し、本人の暮らしがより良いものとなるように要望に耳を傾け、支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通所サービスを利用されていた方については、利用日に面会に行くなど努めている。	入所前に通所サービスを利用されていた方については、利用日に面会に行くなど努めている。	母体施設のデイの利用者に馴染みの人がいる場合、利用日に面会に行ったり、ホームへの面会時には、来やすいような声掛けをしている。また、家族と協力しながら墓参りなどへ出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく関わりを持てるよう、席の配置や作業の役割などにも気を配っている。	利用者同士の関係がうまく保てるように席の配置、お手伝い、作業については注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状況や家族の状況それぞれ理解を示し、必要に応じて相談を受けたり、フォローしている。	本人の状況や家族の状況それぞれ理解を示し、必要に応じて相談を受けたり、フォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から本人の思いをくみ取るよう努め達成にむけ検討、実施を行い本人の思いが優先されるよう心がけている。	関わりの中から本人の思いをくみ取るよう努め達成にむけ検討、実施を行い本人の思いが優先されるよう心がけている。	普段の会話の中から意向をくみ取り、職員間で共有し、支援に活かしている。また、家族からの情報をもとに、入居者の笑顔が出てくるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけ詳しく聞き取りを行い、本人らしい暮らしができるよう努めている。	入居前にできるだけ詳しく聞き取りを行い、本人らしい暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送り等で心身状態の把握に努めている。変化あれば必要に応じてかかりつけ医に相談、報告行っている。	1日2回の申し送り等で心身状態の把握に努めている。変化あれば必要に応じてかかりつけ医に相談、報告行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催前に意見の収集を行い、本人、家族の要望を踏まえた計画を作成し、状況に応じ意見、アイデアを反映したプランへの変更を行っている。	カンファレンス開催前に意見の収集を行い、本人、家族の要望を踏まえた計画を作成し、状況に応じ意見、アイデアを反映したプランへの変更を行っている。	計画作成時には事前に意見記入用紙を活用し意見を求めている。それをもとに家族や関係者で話し合い、計画作成している。また、定期的にモニタリングと評価を行い、現状に即した計画づくりをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは個別記録に記入し、申し送り時で情報を共有又はカンファレンス用の意見書でも情報を収集し、介護計画の見直しに活かしている。	日々の気付きは個別記録に記入し、申し送り時で情報を共有又はカンファレンス用の意見書でも情報を収集し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今何が一番本人にとって必要かを家族と共に相談し柔軟な対応を心がけている。	今何が一番本人にとって必要かを家族と共に相談し柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに行事参加を呼びかけ、交流を図ったり、隣接する施設の行事へも参加し暮らしを楽しめるよう支援している。	ボランティアに行事参加を呼びかけ、交流を図ったり、隣接する施設の行事へも参加し暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、24時間連絡可能な状況で家族や本人の希望を優先した医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医とは、24時間連絡可能な状況で家族や本人の希望を優先した医療を受けられるよう支援している。	母体の病院がかかりつけ医の場合が多く、それ以外でも継続して受診できるよう支援している。通院は家族の協力を得ながら、困難な時は事業所での対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の情報や気づきをスタッフ間で1日2回の申しつぎにて確認しかかりつけ医の看護師や医師に相談、報告する体制がある。	入居者の情報や気づきをスタッフ間で1日2回の申しつぎにて確認しかかりつけ医の看護師や医師に相談、報告する体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医とは密に連絡をとれる体制があり、受診外でも相談を行うなどの関係作りに努めている。経過についてもかかりつけ医より家族への説明も行えている。	かかりつけ医とは密に連絡をとれる体制があり、受診外でも相談を行うなどの関係作りに努めている。経過についてもかかりつけ医より家族への説明も行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明は行っている。面会の際に身体状況や生活状況について、お知らせを行い、家族の意向を確認しかかりつけ医と共にターミナルケアに取り組んでいる。	契約の際に説明は行っている。面会の際に身体状況や生活状況について、お知らせを行い、家族の意向を確認しかかりつけ医と共にターミナルケアに取り組んでいる。	看取りケアの指針を作成しており、契約時に説明している。重度化した際や終末期を迎えた時には、家族や医療機関と十分相談しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異変に気付いたら早急にかかりつけ医に報告する体制をとっている。今後のケアや確認点について意見の交換を行うなどしている。法人内での研修にてAEDの使用についても訓練している。	異変に気付いたら早急にかかりつけ医に報告する体制をとっている。今後のケアや確認点について意見の交換を行うなどしている。法人内での研修にてAEDの使用についても訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、避難経路の確認を行っている。地域の施設と協力する体制など検討中である。	定期的に訓練を行い、避難経路の確認を行っている。地域の施設と協力する体制など検討中である。	夜間の火災を想定し、定期的に訓練を行い職員、入居者とも避難動作を身に付けるよう努めている。また、現在、地域との協力体制の構築を検討している。	地域住民が避難訓練の見学や参加をしてもらうことにより、地域との協力体制の構築を期待したい。また水害、地震などを想定した対策作りにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活背景を大切にしたり呼び方などを家族にも了解を得て行っている。接遇の勉強会を開催し日頃のケアを振り返る機会を得ている。	生活背景を大切にしたり呼び方などを家族にも了解を得て行っている。接遇の勉強会を開催し日頃のケアを振り返る機会を得ている。	接遇の研修を行い、個人を尊重した接し方が出来るよう努められている。また、気になる言葉遣いや対応があると、皆で意識し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言動から思いをくみ取り、自己決定できる場面作り、入浴時の衣類の選択など働きかけている。	表情や言動から思いをくみ取り、自己決定できる場面作り、入浴時の衣類の選択など働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動への参加は、入居者の気持ちを優先している。	活動への参加は、入居者の気持ちを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容サービスの利用やその人らしい身だしなみの支援を行っている。	月1回の訪問理容サービスの利用やその人らしい身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人のできる工程を工夫し、作業できるよう支援している。	1人1人のできる工程を工夫し、作業できるよう支援している。	食事の準備や後片付けと一緒に手伝ってもらっている。また、食材に季節の物を取り入れたり、おやつ作りでは入居者の希望に応じてメニューを決め、楽しみになるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時の他にも10時、15時には飲水をすすめる、排泄状況とあわせ確認している。食べる量は摂取状況に応じてすすめる時間や回数を変えている。	食事時の他にも10時、15時には飲水をすすめる、排泄状況とあわせ確認している。食べる量は摂取状況に応じてすすめる時間や回数を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には歯みがきをすすめたり、介助を行っている。個人の力に合わせたケアや対応を行い、日中も洗口液を使い口腔ケアに努めている。	夕食後には歯みがきをすすめたり、介助を行っている。個人の力に合わせたケアや対応を行い、日中も洗口液を使い口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、回数や量などの把握に努めたり、本人の習慣に応じて物品処分用のバケツを置き自立に向けた取り組みを行っている。排泄用品については家族と相談し使用している。	排泄チェック表を使い、回数や量などの把握に努めたり、本人の習慣に応じて物品処分用のバケツを置き自立に向けた取り組みを行っている。排泄用品については家族と相談し使用している。	排泄チェック表を活用し、排泄の自立に向けて取り組んだり、汚物入れの場所を工夫したり、環境を整えることで自力で出来る事を増やすようにされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや水分の摂取、散歩などの運動を取り入れている。家族の協力を得て乳製品などを定期的に購入するなど個々に応じて取り組んでいる。	腹部マッサージや水分の摂取、散歩などの運動を取り入れている。家族の協力を得て乳製品などを定期的に購入するなど個々に応じて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ゆっくりと入って頂けるように心がけている。又面会等の際は曜日を変更するなど行っている。	入浴日は決まっているが、ゆっくりと入って頂けるように心がけている。又面会等の際は曜日を変更するなど行っている。	本人のタイミングに合わせたり、声掛けを工夫する事で、全入居者がまんべんなく入浴できるように心がけられている。また、面会時は曜日をずらすなど配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に応じて対応行っている。	本人の体調に応じて対応行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書にて、内服内容を確認している。飲み合わせなど薬局に確認したり、症状の変化については医師への報告行っている。	服薬の際、飲みこぼしあったりする為なるべく口に入れるようにしているが、嫌がられる方もおられる為その際は飲み込まれるまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしさが活かせる役割を持って頂いている。買い物や外食、ドライブ(季節の花見物)などで気分転換を図れるよう支援している。	その人らしさが活かせる役割を持って頂いている。買い物や外食、ドライブ(季節の花見物)などで気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての入居者には行えていないが、外出したい思いを大切にホーム周辺の散歩へ行くなど支援している。又誕生日には行ってみたい場所の希望に沿うよう家族への参加協力求め対応している。	全ての入居者には行えていないが、外出したい思いを大切にホーム周辺の散歩へ行くなど支援している。又誕生日には行ってみたい場所の希望に沿うよう家族への参加協力求め対応している。	入居者の希望に応じて、近所へ外出している。また、敷地内にも散歩道があり、そこを散歩する事もある。遠方への外出は誕生日などに、家族と協力しながら行っている。	



自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外出時など個々に応じた支援を行っている。	ショッピングや外出時など個々に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に協力して頂き対応できている。	ご家族に協力して頂き対応できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂からは中庭を見ることができ、季節の花々を木々の様子から季節を感じたり、季節に応じた作品を掲示し工夫している。	廊下や食堂からは中庭を見ることができ、季節の花々を木々の様子から季節を感じたり、季節に応じた作品を掲示し工夫している。	気になる光や音は無く、清掃も行き届いており過ごしやすい空間である。職員も足音などに気を配っている。また、掲示物は入居者と作成したものがあつたり、中庭には四季の花が植えられており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	可動域の畳を利用し、休息がとれたり、談話できるよう工夫している。廊下にはベンチもあり散歩の途中で休息したり、思い思いに過ごされている。	可動域の畳を利用し、休息がとれたり、談話できるよう工夫している。廊下にはベンチもあり散歩の途中で休息したり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、配置も家族と相談し居心地よい空間作りを行っている。	使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、配置も家族と相談し居心地よい空間作りを行っている。	ベッドの向きや位置など、自宅の環境に近づけ、使いやすい配慮がなされている。また、使い慣れた家具や、馴染みの物も持ち込んでもらい、居心地の良い空間作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレまでの道順などを紙に記し貼り出しすなどの工夫をしている。	居室からトイレまでの道順などを紙に記し貼り出しすなどの工夫をしている。		